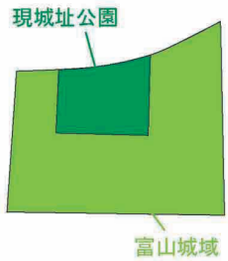
左ページの図は現在の地図に富山城の範囲を重ねた図です。右の図は、黄緑色の部分が元の城域、濃い緑色の部分が現在の城址公園の面積を表しています。城址公園は元の城域の６分の１程度しかありません。このことから、元の富山城がかなり大きかったこと、残っている部分が全体のほんの一部であることが分かりますね。



下の図は、江戸時代の富山城の構成を示したものです。元の富山城はこんなに大きかったのです。

本 丸
藩政の中心であり、藩主の住居でもあった本丸御殿がありました。城の中心にあたります。

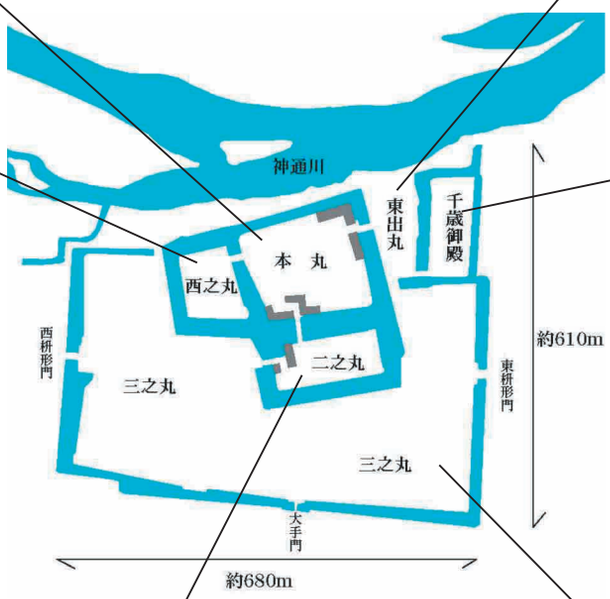
本丸御殿

東出丸
あまりよく分かっていませんが、江戸時代後期には産物方役所という役所が建っていました。

西之丸
米などを納める土蔵が建っていました。

千歳御殿
江戸時代後期、藩主を隠居した前田利保（としやす）によって千歳御殿が建てられました。

天守閣
建てる計画はありましたが、財政的な理由などから、実際には建てられませんでした。



二階櫓門

二之丸
侍（さむらい）番所や、城の内外に時を告げる時鐘所がありました。入口には富山城で最も重要で、最も立派な二階櫓門（にかいやぐらもん）が建っていました。

三之丸
藩の学校や役所、上級家臣の屋敷などが建っていました。富山城で最も大きな曲輪（くるわ）です。

それでは、大きかったお城がどのようにして６分の１になってしまったのでしょうか。また、城址公園部分はなぜ現在まで残ったのでしょうか。そこには富山県庁の存在が大きく関わっています。さて、県庁と城址の保存にはどのような関係があるのでしょうか。